

第1回駒ヶ根市自治組織の在り方検討会 市長あいさつ

【日時：令和5年12月21日（木）19時～20時40分、場所：駒ヶ根市役所大会議室】

皆様こんばんは。

年末、しかも平日の夜この遅い時間にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。御礼を申し上げます。

この自治組織の在り方検討会。今回、これから立ち上げるわけですが、このコロナ禍の中で、3年半、4年近く。この人と人との繋がりが、なかなか結びにくくなってきた時代であったと思います。私も市長に就任してほぼ同時に、このコロナ禍に突入したということで、様々、試行錯誤を繰り返しながら取り組んで参りました。

そういう中で、人と人との繋がり、地域社会コミュニティのあり方というのが、ウィズコロナ時代を迎えて、改めて大きく問われているということを、強く感じております。

誰もが、この自治組織、コミュニティは必要だと、この繋がりは続いてほしいと思っておられることだと思います。

ただ、様々いろんな事情も、いろんな価値観の違い、それぞれの思いのすれ違いの中で、特にウィズコロナという時代を迎えて、大きくそのところが問われているというふうに考えます。

しかし、防災であれ、様々な行動のときには、やはりこの地域の繋がり、人と人との支え合いというのは、不可欠であります。人はなかなか1人だけでは生きていけないものであります。

そうした繋がりを、この時代の大きな節目に、皆さんと一緒に考えて、そして、新しい時代にふさわしい形で見直し、作り変え、そして20年、30年、40年経っても、駒ヶ根市のコミュニティは、しっかりあるんだという形を、皆さんと共に作って参りたいと思います。

駒ヶ根モデル。それをぜひ目指して参りたいと思います。これは、全国各地、いろんな場所で、同じ悩みを抱えておられることと思います。「駒ヶ根市がそのモデルを作る。」と、それぐらいの意気込みで、この検討会を始めたいと思っているところでもあります。

なかなか、今日、明日、すぐに結論が出る話ではございません。1年、1年半、2年かかってもいいと思っております。皆様方のお知恵をお貸しいただいて、次へ繋ぐ組織の在り方を作って参りたいと思っております。

アドバイザーには、松本大学の白戸先生にお願いをいたしました。私も記者時代から存じ上げている先生で、自治の現場に入って、自ら一緒に悩まれ、考え、行動される先生であります。まさに、この取り組みにふさわしいと思ひまして、お願いをいたしました。

是非、皆様も、リラックスをしていただいて、あまり構えずにですね、それぞれの想いを自由にお話しただければ、それが明日に繋がっているというふうに考えております。いろいろとご負担をかけることもあるかと思いますが、是非、趣旨を汲んでいただきまして、お力をお貸しいただきますよう、よろしく申し上げます。

ありがとうございます。